

令和 6 年度

第 12 回 和光市地域公共交通会議

(1)開催概要

■ 日 時 : 令和 5 年 6 月 3 日(月) 13:30～15:30

■ 場 所 : 和光市役所 502 会議室

■ 出 席 者 : [和光市地域公共交通会議委員] 出席 25 名

[事務局] 4名

[報告説明員] 道路安全課 1名、駅北口まちづくり事務所 2名

[傍聴] 8名

(2)会議の概要

1. 開会

2. 挨拶(柴崎市長)

皆さんこんにちは。和光市長の柴崎です。本日はお忙しい中、第 12 回和光市地域公共交通会議にご出席をいただきましてどうもありがとうございます。委員の皆様におかれましては、日頃から和光市の公共交通に関しまして、多大なるご協力をいただきまして心から感謝申し上げます。

当市においては、それまで市内循環バスの運行の見直しに取り組んでまいりましたが、令和 6 年 1 月 4 日から、市内循環バスの新たな変更をスタートさせることができました。ご協力いただきました皆様、改めて感謝申し上げます。

また、近年にはバスやタクシー等の公共交通の運転手不足が課題となっておりまして、当市においても不足しているような状況です。

それらを受けまして、本日は 2 点の議事についてご審議をいただきたいと思います。

1 件目は和光市内循環バスの運行実績及び計画について、2 件目は東武バスグループ株式会社様の市内循環バスからの撤退について、事務局からの説明ののち、委員の皆様のご意見等をいただければと思います。

最後になりますが、皆様方のご健闘とご多幸を心よりお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議 事

① 和光市内循環バスの運行実績及び計画について

・資料 1 を基に事務局より説明

会長

本日は資料 6 ページ・7 ページに記載の今年度の取組みについて、協議していただく。また、報告事項 1 の関連性も高いため、これも踏まえて協議を進めたい。

・報告事項①和光市内循環バスの利用者アンケートの実績報告について資料に基づき説明

委員

アンケートの意見を読むと、特に「乗り継ぎがうまくいかなかった」という声が多いため、ダイヤ調整をうまく工夫する必要がある。

また、福祉車両の導入や子連れ利用の際のベビーカーを伴う利用などの対応についても、検討できると良いのではないかと思う。

事務局

まず、総合福祉会館へのアクセスについては、今回特に向山・牛房コースの利用者から「行きづらくなった」という声を頂いている。ダイヤ検討時に乗り継ぎ時間についても調整を試みたが、現実的に不便な点が出たことに関してお詫び申し上げる。今後の課題として、利用しやすい・乗り継ぎしやすいといったところで改善・検討していく。

また、ベビーカー等の利用について、マイクロバス等の車内の段差や通路の狭さといった意見もいただいているため、車両の変更も含めて検討していく。

会長

休憩のタイミングに合わせて和光市役所へ延伸している便があるが、他の便との接続という点で考えた際に、休憩時間と併せて検討する必要がある。

また、福祉対応について、坂下新倉コースはほぼ満席に近い状態な上、シニアカーの利用もみられる。特に当該コースは定員を減らした分充実させたというダイヤ改正だが、定員オーバーしている部分がある場合、車両の変更を検討していかなければならない。このあたり、日々の人数を確認し、8～9人の利用が続くようであれば、車両変更等対策の必要がある。便別の利用者数など情報提供いただきながら検討したい。

委員

今回の見直しにより、休憩時間を十分に確保できるようになってから運用上の支障はなくなった。しかし、利用者数に関しては大きく変わった感じはしない。

委員

毎回ではないが増便対応が発生している中で、車椅子対応というのは現実的に厳しいのではないかな。

委員

和光輸送からも意見があったとおり、かなり利用はある状況となっている。この状況に車椅子対応を加える場合、デメリットもあるが、障がい者対応という観点からは必要な対応になるため、当事者の意見も踏まえながら検討していきたい。

またバスロケーションシステムの導入についてだが、利便性にもつながり有効な手段だと感じる。しかし莫大な費用がかかりそうであるが、どのような計画でどのようなものが出来るのか、分かる範囲で伺いたい。

加えて、循環バスの人材確保について、どのような見通しを持っているのか伺いたい。

事務局

バスロケーションシステムについては、どのようなシステムを導入するかで変わるが、基本的にはQRコードやHPにアクセスして地図上で現在走っている車両の位置を確認でき

るものを想定している。主に停留所でバスを待っている際に、バスが出発したあとなのか遅延しているのか、現在どこを走っているのかという点を確認できるものを考えている。

人材確保については、今後、運転手要員が増えることは難しいと考えている。バス事業者にも工夫していただいている中、市としても予算等も含め、事業者の意見を伺いながらどのようなことができるのか検討していきたい。

委員

高齢者の利用が7割程度とのことだが、これは路線毎で傾向が異なるのか、あるいは全体で残りの3割が通学等の利用なのか。

事務局

赤池コースを筆頭に一部通勤に利用している方がいるが、通学に関してはあまり多くない様子であった。一方で、最終便を早めた部分について、仕事帰りに利用できなくなったという意見もある。ただ基本的には高齢者の病院等の移動が中心となっている。

吉田会長

時間帯によって利用者層が異なるようであれば、それに応じた運行が出来ると思うため、便別、時間帯別などで、優待・一般で区分したデータを事務局に用意出来ると良いのではないか。

委員

向山方面から南方面に行くバスがなくなってしまった。埼玉病院で乗り換えていくにもちょうどいいバスがない。また、再編について、高齢者福祉センターにて職員から説明の場があったが、そこでも、不便になったという意見も多かった。

事務局

向山方面から総合福祉会館方面等の移動時の乗り継ぎ発生について、また、総合福祉会館や高齢者センターの利用・多方面の移動に関して、具体的な対策を提示することはできないが、ハード・ソフトの両面でどのような対策が出来るか検討したい。

吉田会長

再編によって今まで利用していた人が利用できなくなることもあるという中で、そのような人をどれだけ少なくするかが重要である。路線網はこれで完成ではないため、今後引き続き、マイナーチェンジをしていく必要がある。

委員

令和５年度の費用の各コースの内訳について伺いたい。

事務局

赤池コースが 13,801 名、越後山コースが 6,250 名、向山・牛房コースが 5,559 名、白子・吹上コースが 5,167 名、坂下・新倉コースが 3,450 名という内訳になっている。

② 東武バスウエスト株式会社の市内循環バスからの撤退について

・資料２を基に事務局より説明

委員

給料を上げるなどした結果、乗務員を若干数増員することが出来たため、今年度については対応できるかと思うが、９月・３月と年２回ある定年退職で辞めていく人数を踏まえると、３～５年後の運行については保証できない。ただ、コミュニティバスの運行については、地域にとって必要なものであるため、自治体が協力した上で、継続を模索していく必要がある。

4. 事務局より報告事項

- ① 和光市内循環バスの利用者アンケートの実績報告について
- ② 公共交通空白地域タクシー利用料金助成事業の実施について
- ③ 福祉部局との協議の進捗について
- ④ 自動運転バスの1期実証及び1期実装運行について
- ⑤ 和光市駅北口土地区画整理事業及び駅北口再開発事業検討状況の概要
- ⑥ 和光市道2002号線バスシェルターの活用について

5. その他

委員

報告6について、バスシェルターは設置当時、周辺の地域では反対する意見も多かった中、強行して設置されたものである。にもかかわらず、1回も使用せず取り壊すということについて、市ではどのように責任を取ることを考えているか。

事務局

コロナの影響により、想定していた利活用できなかったうえに、昨今の状況では新規路線整備による活用も見込めない。また現在、周辺の迷惑駐車、迷惑駐輪等の対策や、歩行者の安全通行帯の確保が求められていることから、これらを踏まえて進めたい。

委員

報告5について、市民の意向はどのように反映されているのか。

事務局

市民の意向については、今後ワークショップ等を開催して、その意見を取り入れていく。本日の資料で提示している図は、その際に使用する予定のもので、まだ確定したものではない。

委員

整備にあたって、市民の声を取り入れながら進めてほしい。

委員

報告5について、12年前ぐらいにもWSを開催し、基盤整備ということで進めると聞いていたが、今回の開発にあたっては、立地適正化計画の内容等も踏まえて、面的だけでなく、立体的な整備も進められないか。

事務局

駅前広場についてはあくまでも平面図に関する協議である。協議においては、新しい要素を加えながら、施工者と連携して進めていきたい。

6. 閉会

委員の皆様においては、会議開催にご協力頂きありがとうございました。次回の公共交通会議については、詳細が決まり次第、改めて共有します。本日はありがとうございました。

以上